

【議題】

あいさつ

- 1 地域力応援基金スタートアップ助成事業[新規]の選考について
- 2 区民協働担当事業について
- 3 地域力応援基金ステップアップ・ジャンプアップ助成事業について
 - (1) 審査員の選出 (3名)
 - (2) 経過観察員の選出
- 4 区民協働推進会議の調査研究テーマについて
- 5 その他

【出席者】

勝又委員 加藤委員 内藤委員 根本委員 中島委員 石垣委員
石川委員 遠藤委員 牛山委員 山本委員

地域振興部地域力・国際都市担当部長 区民協働担当課長 地域力連携協働支援員
区民協働担当 2名

【会議録】

事務局 定刻になりましたので、平成25年度第2回大田区区民協働推進会議を始めさせていただきます。
本日、委員10名の方にご出席いただいておりますので、大田区区民協働推進会議設置要綱第6条に基づき、会議は有効に成立したことをご報告申し上げます。
なお、議事録作成のため、本日の会議を録音させていただきますのでご承知ください。
始めに、地域力・国際都市担当部長からごあいさつを申し上げます。

部長 《部長あいさつ》

事務局 続きまして、会長にごあいさつをお願いします。

会長 《会長あいさつ》

事務局 ありがとうございます。この後は、会長に進行をお願いします。

—地域力応援基金助成事業 スタートアップ助成の審査の部分は非公開—

会長 それでは、「区民協働担当事業」について事務局から説明をお願いします。

事務局 平成25年度区民協働担当事業についてご説明いたします。

資料2をご覧ください。区民協働を実施している事業を掲載しております。時間の関係もありますので、掻い摘んで説明をさせていただきます。

[区民活動の育成と基盤づくり]

- 1 NPO・区民活動フォーラムは、活動の発表の場として毎年開催しています。昨年度は、区役所と消費者生活センターを会場に1月26・27日の2日間で、延2,900人の来場者でした。
- 2 区民活動コーディネーター養成講座は、地域で活動を行う団体の連携・協働を推進するつなぎ役となる人材育成を行うための講座の開催です。毎年9月に開始し、講座、現場見学、ワークショップ等などを全10回程度で実施しています。昨年の受講は31名でした。
- 3 おおた地域力発見倶楽部は、区で実施する地域活動をテーマとした講座情報を一覧表にして紹介し、活動に関わるきっかけづくりを行っています。
- 4 地域協働協力員は、地域振興課区民協働に非常勤で採用し、特別出張所の求めに応じ、地域課題の解決のために活動している団体の連携・協働の支援を行うというものです。
- 5 地域力連携協働支援員は、この分野の専門的知識経験者を非常勤として採用し、区民活動団体相互の連携・協働について一層の充実を図るため、促進に関するプラン作成等を行うというものです。
- 6 区民協働推進会議は本会議で、年7回の開催予定となっています。

[団体支援とネットワークの強化]

- 1 地域力応援基金助成事業は、資金面の支援として、区民の皆様からの寄付を積み立てた「地域力応援基金」を原資に区内で活動する団体の公益的な事業に対して助成金を支出しています。スタートアップ助成、ステップアップ助成、ジャンプアップ助成3種類の事業です。
- 2 協働推進講師派遣事業は、自治会・町会、区民活動団体が実施する事業に講師派遣するもので、年10回程度を予定しています。
- 3 地域で活動する団体の情報を提供するウェブサイト「区民活動情報サイト（オーちゃんネット）」を運営しています。福祉・文化・国際交流など現在426団体が登録し、講座やイベントなどの情報を掲載しています。24年度のアクセス件数は約24,000件でした。

[協働支援施設の運営]

- 1・2 大田区の区民活動を支援施設として、区民活動支援施設大森（通称 こらぼ大森）内の協働支援施設（指定管理委託）と区民活動支援施設蒲田（通称 mics）（協働推進コーディネーター2名配置）の運営を行っています。施設では、コーディネーターが相談や情報提供を行っています。
- 3 被災地支援ボランティア調整センターは、東日本大震災の被災地及び区内避難者の支援を行っています。
- 4 防災塾は、被災地での活動経験のある区民ボランティアを対象にした区内発災時に活動いただくために必要なスキルを習得する講座です。今年度は、ボランティアリーダーとして活動いただくためのスキルを学ぶ基礎編と発災時に立ち上げる災害ボランティアセンターの運営に携わってもらうためのスキルを学ぶ応用編の2講座を実施する予定です。24年度は受講者32名、修了者29名です。

会長 ただいまの説明内容につきまして、質問・意見等がございましたら発言願います。

委員 事業予算は、一般会計財源又は基金事業財源なのか説明ください。

- 事務局 地域力応援基金助成事業以外はすべて一般会計財源です。
- 委員 2点質問があります。1点目はコーディネーター養成講座についてですが、社会教育課が実施している人材育成講座と目的は違うようですが、学び共に活動するという講座を運営するノウハウは同じように思いますので、実施したい講座の要望を出して運営は社会教育課で実施する方が効率的だと思います。2点目は、防災塾についてですが、対象が現地ボランティアに行った方になっていますが、本来の目的からすると発災時に大田区内で活動するリーダーを育成するということなので、現地ボランティアをした人だけが対象でなくてもいいのではないかという疑問を持ちました。
- 事務局 教育委員会で実施している講座と類似している点については把握しております。その講座だけでなく、社会教育課と区民協働と一緒にやっていくことはできないかということで、6階のスペースに区民活動情報相談コーナーを設置し、一緒に運営を行っているところです。ここに社会福祉協議会も連携し、ボランティア、社会教育団体、区民活動団体の方々に広く情報提供を開始しています。特に社会教育課とは生涯学習相談会などへのMICS おおたのコーディネーター協力や区民活動フォーラムへの社会教育課、社会福祉協議会などの参加で「ワンストップ相談・情報コーナー」も開設し、連携していく流れを作っています。しかし、コーディネーター養成講座につきましては、被る点もありますが、区民協働の講座は、地域内を繋ぐ地域の繋ぎ役を養成を目的とするものなので、講座を行うというより互いの団体を知ることにより力を入れています。当面は連携しつつ、別々の講座で進めていくことになると思います。
- 委員 社会教育課では年間20～30講座を運営されているので、こちらで力を入れて運営されるより、ノウハウを活用された方が効率的に目的は実現できると感じます。
- 事務局 その点については参考にさせていただきたいと思います。防災塾への参加対象者について東松島市ボランティア参加者だけでなく、一般の方も受講できるようにした方がよいのではないかという点ですが、区としては、東松島市でのボランティアで得た経験を区にフィードバックいただきたいと考えている点と育成していくのはボランティアリーダーであるという点で、ボランティア経験のある方をボランティアリーダーストと考えています。最終的には、一般の方が入ることもあるかもしれませんが、現在被災地に行かれたボランティアは延9,000人程となっていますので、2回目位まではこの方々を対象に実施していきたいと考えております。
- 委員 説明いただいた事業の開始年度と事業評価方法について説明ください。
- 事務局 ほぼ全部の事業が、「おおた未来プラン」に記載されており、平成21年度から開始しています。こらば大森は、平成16年度に設置し、被災地支援は震災後からの事業となります。事業評価については、「おおた未来プラン」に掲載されている事業主幹部署へ自己評価とともに実績報告を行っています。現在「おおた未来プラン10年」における平成21年度からの前期実績評価を行っているところです。
- 委員 評価を掲載している所がなかったのでお聞きしています。国の機関でも予算、決算等は公表しています。
- 部長 全事業について事務事業の評価を公表しているものではありませんが、国で行っていた事務事業仕分けのようなものには上がったものについては公表していますが、すべての事業に点数をつけることは行っていません。予算編成時には予算査定を行っているため、内部での事業評価は行っていることとなります。外部事業評価や「おおた未来プラン」など計画事業については公表しています。
- 委員 協働事業の公表を行っていないのですか。

事務局 所管課としての報告は行っていますが、公表はしていません。

課長 「おおた未来プラン」事業の進捗状況の報告はホームページで行っています。

委員 平成21年度から事業を実施しているのですから、どこかで事業を評価して効率性も含め見直すということが必要であると思います。

課長 事業をピックアップして第三者の委員の方々に評価いただいております。

委員 たまたま区民協働担当の事業評価は行っていないということですか。

課長 選ばれなかったということになります。

会長 10年計画を立て、4年経過したところで見直しを行っているということですね。大田区の連携・協働事業は、平成16年10月に始まっており、当初から関わってまいりました。事業名は変わっても連携・協働の事業を行ってきています。連携協働の事業は1年や2年で評価できるものではなく、4年5年と経過して初めて評価できる性質のものであると考えます。まさに今計画内容の評価を行っているということなので、その結果で見直しや新規を考えていくことになるのではないのでしょうか。

課長 今年は「おおた未来プラン」は前期5年間で実施してきた事業を外部委員の方々にも入っていただいて評価・検証し、後期5年間の具体的取り組みを決め、目的の達成を目指しているということです。

会長 大田区では事業を積み上げて計画実施してきていると思いますが、このような質問が出るということは、それでいいかどうかということがあるかもしれません。見直し時期は事業によって3年、5年それ以上など細かい部分が出てくると思います。今回は10年計画で5年毎の見直しを行うとのことですが、世の中は早い勢いで変わっていますので、前例踏襲でいいか検討が必要かもしれません。

委員 こらぼ大森とMICS おおたの予算額は実績による積算ですか。

事務局 2つの施設は運営形態が違います。こらぼ大森は指定管理で運営しています。ここは複合施設なので、2階の協働支援施設の管理運営に対する予算額です。MICS おおたは、区が直接運営しています。土日夜間運営、非常勤職員の経費などが予算額です。毎年予算時期に見直しを行い、必要経費を精査して予算化しています。

会長 できれば1回目の会議時に予算額などを提示した方がいいと思います。

事務局 わかりました。

会長 それでは地域力応援基金ステップアップ・ジャンプアップ助成事業について、事務局から説明をお願いします。

事務局 ステップアップ・ジャンプアップ助成について6月6日に事前説明を行い、11日から募集を開始します。両事業とも審査が必要となりますので、委員の皆様をお願いします。スタートアップ助成事業との違いは、1次は書類審査、2次は公開プレゼンテーションとなることです。内容は、1次通過団体に10月12日に区役所に集いいただき、一般の方々にも公開する形で事業プレゼンテーションを行います。終了後、審査委員から質問をするという面接型プレゼンテーションを考えています。その後、当会議の中で区長推薦事業を確定いただき、最終的に採択団体を決定します。本日は推進会議委員の中から3名の審査委員選出をお願いします。書類は7月下旬から8月初旬にお届けします。8月の中旬以降に書類審査のすり合わせを行い、1時審査通過団

体を決定したいと考えています。その後10月12日の公開プレゼンテーションに審査員として加わっていただきます。終了後、すり合わせを行い、最終的な審査採択団体を決めていただきます。

それでは審査委員3名を選出いただきたいと思います。

《審査員の選出》

- 委員 公開プレゼンテーションを行うので、今回は審査委員も明らかになるのですか。
- 事務局 当日、名札は出しません。名前も極力言わないように進めていきます。名前の公表をホームページ等では行いません。
- 会長 3名が決まりましたのでよろしくお願ひします。
次にステップアップ・ジャンプアップ助成事業の経過観察員の選出について説明ください。
- 事務局 資料3-4をご覧ください。経過観察とは、昨年採択され本年度事業実施を行っている団体を区民協働推進委員と区民協働担当で訪問し、参加人数や広報手段、運営方法等が計画・申請どおり進んでいるか確認いただくものです。気がついた点がありましたら指摘いただき、事務局から伝えて軌道修正の指導を行います。これまでの例では、実績報告で計画どおり事業が進んでいないことがわかった場合、対象外経費となり精算で戻入していただくことになり、運営に影響を与えてしまう場合があります。今年度は7団体あり、7番目のベストキッズは候補日が未定となっておりますが、各委員1箇所を担当いただきたいと思います。

《経過観察員の選出》

- 会長 それでは、選出委員の皆様よろしくお願ひします。
次に区民協働推進会議の調査研究テーマについて、説明をお願いします。
- 支援員 前回、区民協働推進会議の主な役割には、助成金の審査と毎年度テーマを決めて行っている調査研究があるという説明をしました。
調査研究テーマは皆様から提案いただく方法もありますが、平成23・24年度はこれまでの経過を踏まえ、区として検討いただきたいテーマを事務局から提示しました。平成25年度も提示させていただきたいと考えています。
今年度のテーマを説明する前に、まず、平成24年度での提言内容を確認します。
「おおた未来プラン」の中でも区民一人ひとり、自治会・町会、団体・NPO、事業者、区などが連携・協働することで地域力の向上を図ることが掲げられています。それを踏まえ、平成24年度のテーマでは、ここ最近、取り組みとして顕著に目立ち始めている高齢者や子どもの居場所づくり・サロン活動について実際に様々な団体と協力して地域で展開している事例を取り上げた上で、うまくいっているポイントなどを検証しました。前期では6つの提言をいただき、特に資料4-1のとおり、提言4～6は区が行うものとした内容が記載されており、提言4『参考になる事例を広める』、5『協働が進むためのしなげをする』、6『地域団体間の「つなぎ役」を増やす』で取り組む方向性をまとめたものになります。ここでの区の対応については、現段階では方向性として示していますので、後日取り組み状況を報告します。
以上のような前期提言を踏まえ、今年度調査研究テーマを考えてみましたが、特に提言5の『協働が進むためのしなげをする』で、協働が必要とされるテーマを区が設定し、地域の様々な団体に呼びかけるというものがあります。具体的にしかけていくためには、区も根拠なく進められませんので、具体化の裏付けのためにも資料4-2のとおり『自治会・町会の現状と連携・協働ニーズ調査』をテーマとしてみたらどうか

と考えました。連携・協働が必要なテーマはいろいろと考えられますが、地域の中で一番多くの仕事を担っているのは自治会・町会であろうということで、自治会・町会の取り組みや他団体との協力体制、あるいは新たな人材を必要としているかなどを把握することで、地域の連携・協働がより進むのではないかと考え、自治会・町会に対しての調査を行うことを提案したいと思います。

調査を行い状況の把握ができると、平成26年度は地域で必要とされているテーマを認識した上で、地域の方に根拠を示して具体的に投げかけることができると思います。また、資金が必要な場合、ジャンプアップ助成基金のテーマに掲げる等の活用方法も考えられます。調査項目はまだイメージですが、地域力が高まるというのは、地域の中で地域のために動く人材が増えるということだと思うので、現在、地域に関わっている人材がどうなっているのか、役員の年齢層や人数、地域力を入れている取り組み、そこに関わっている人材や団体の状況、今後取り組みたいものやそれに必要な人材というようなことを調査していきたいと思います。また、人材という意味では、若い人材、新しい人材の確保が、今後の重要テーマとなってきます。よい事例を把握し、人材確保の方法や運営の工夫、あるいは区の支援で必要なことは何かなどを調査していきたいと思います。一方、NPO・ボランティア団体などの活動が、地域の中で確実に増えている動きがありますが、十分に自治会・町会との連携が進んでいない状況もあります。実際に取り組まれていること、NPO・ボランティア団体と協働・連携することをどのように感じるかなども把握したいと思います。調査対象を217自治会・町会の全部にするか、18地区の自治会連合会にするか、アンケート調査後、抽出して聴き取り調査を行うなどの考えもありますので、皆さんに相談しながら決めていきたいと思います。

次の推進会議は9月の初旬を予定していますので、スケジュール案、調査項目案などは、本日、テーマの決定をいただいてから作成していきます。

会長 ただいま説明のあった内容で、ご意見等ありますか。

委員 現在オーちゃんネットという区民の情報がたくさん入るような仕組みだけにはできていますが、活用方法が十分ではないと感じますので、提言4の取り組みに繋がりますので、この活用を考えてみるのも一案だと思います。情報を共有していい事例があることが伝えられると、ネット上の繋がりを介して人の繋がりにも結びついてくるのではないかと思います。せっかく作った仕組みなので、どの程度活用されているかということを検証した方がよいと考えます。登録をしても内容がない活動団体もありますし、自治会・町会のところでは200を超える町会があっても情報を載せているのは50団体程度しかありません。情報をオープンにする方向で、全自治会が載せていくように働きかけていくというのもあると思います。記入欄なども記載を促し、充実をさせていけば、せっかくの仕組みを皆で有効に活用してネットワークを広げるといった使い方を研究テーマにすることを提案します。

支援員 オーちゃんネットをご確認いただき、掲載数なども調べていただき、ありがとうございました。自治会・町会については、現実には特別出張所がとりまとめた同じものを載せている状況もあり、また、自治会・町会では情報ツールを活用できないところも多いという状況があります。調査を通じて仕組みなどの内容を伝え、少しずつ変えていくきっかけにできれば良いと思います。

会長 自治会・町会では、活用することが簡単ではありません。高齢者が機械的な物に慣れていくには時間が必要です。若い人が入ってくればいいのですが、簡単にはいきません。オーちゃんネットだけにテーマを絞るのは難しいと感じます。しかし、オーちゃんネットの活用や啓発などのPRは必要だと思いますので、活発にやってください。

委員 情報を特別出張所にお願いし、掲載をお願いするなどできませんか。町会も活動実績や総会なども実施しているので、こういったものを掲載すれば他団体の状況を参考に

自分達の活動を見直すようなこともできるのではないかと思います。自治会というのは同じ人達で運営し、年齢も上がり、他のところを見てないから変わらない部分もあるかと思っています。

会長 町会には助成金が交付されているので、実績報告のために事業報告、事業案、総会議事録等内容に差があるかもしれませんが、町会の資料は特別出張所に提出しています。

委員 現在、町会の法人化はどの程度進んでいますか。

会長 217自治会・町会中50～60団体程と思います。

委員 基本的なことになりますが、自治会・町会とはどのような位置付けのものなのですか。何町会といいますか、どのような位置付けか、町会費も支払いは自由なので、払わない方もたくさんいますよね。

会長 戦後、昭和26年頃GHQの影響により自治会・町会が発足していると思います。戦前は隣組ということで、そこに住まうと半強制的に会員となりました。戦後、強制的なものは失われて任意団体となり、加入率が落ちてしまいました。未加入の方がいると活動しにくいと、加入促進運動は大田区全体でも行っていますが、月200円の会費の支払いが難しい方々が出てきているのが現状です。しかし、啓発力・周知力・動員力を持っている末端組織であり、班長から末端の住民まで回覧、チラシ配布、掲示板による情報提供ができる組織でもあります。これは、国、都、区、地域などで重要なことを啓発するうえで、絶対に動きのいいところであるのは事実です。この仕組みがないと行政は困ると思います。

委員 調査の中で位置付けを出したいということですか。

支援員 位置付けは、あくまでも住民の自主組織です。大田区では地域力を掲げており、行政力だけでは自治はやっていけませんので、地域の基盤となる自治会・町会を中心として地域が協力していくというものだと考えます。

会長 法律の中で地縁団体ということで法人化が認められています。法人化は、自治会・町会で財産を持っているところが条件のもとに認可されるものです。もともと自治会・町会で使っている町会会館は、個人名義で所有していたのですが、平成3年に借金等による事故が起きたことが発端で作られた制度です。地域の建物が認可された地縁団体で所有できるようになり、地域での保全できるようになりました。また、会長が退任した場合、名義変更が必要となります。任意団体の場合、変更には相当の労力がかかりますが、法人団体では、簡易な手続きで変更できますので大きなメリットとなります。

委員 戦前の自治会・町会は、隣組で回覧などを回し、行政の末端組織のような言われ方をする面がありました。今でも学者の世界では、組織が保守的且つ強制的で良くないというような議論もあります。しかし、地域で活動や交流が行われており、行政にも必要で役に立っている状況があると思います。財産を持っていると面倒な所がありましたので、自治法が改正されました。依然として最高裁では強制加入は認められないという判断があり、市役所などに聞くと強制ではないので入らなくていいと言っている所もあるようです。NPO法ができて、NPOや活動団体が応援されたりしますが、別の枠組みを持って活動しているので繋ぐということは重要なことです。このテーマは、とても良いものであると思います。

会長 調査方法について例が出ていますが、18地区の連合会長などにも声がけを行い実施していくといいですね。

- 委員 行政報告の資料を活用することはできませんか。
- 支援員 そういうものも入手はしていきますが、今回は数字で見えるだけではなくて、人材のことや工夫の内容などを調査していくことを目的としています。
- 会長 困っていること、必要なこと、他の団体等と連携をとりたいなどの実態調査を行おうとしています。その後、意見調整をしていきます。
- 支援員 NPOの中にも自治会・町会と繋がりを持ちたいが、どういうことに困っているのかわからないという意見ももらっています。この調査から見えてきた実態をもとにアプローチの仕方も見えてくると考えます。誰もこの情報を持っていない状況なので、掘めるといろいろな方々に役立てただけだと思います。
- 会長 それでは、テーマは『自治会・町会の現状と連携・協働ニーズ調査』ということで決めてよろしいですか。
- 委員 私は「オーちゃんネットワークをより活用する」ことをテーマとして提案しましたが、自治会・町会のことを調査するのもいいと思います。しかし、アンケートの作業となると委員にどれくらい負担がかかってくるのかわかりません。
- 支援員 事務局側で基本的な作業は進めていきます。聴き取りを行うなど、委員の皆さんにもご協力いただくことも想定できますので、今後の会議で確認していきます。
- 会長 それでは、これでテーマを決定します。
次回の推進会議の日程を決めたいと思いますので、事務局からお願いします。

＜ 第3回 区民協働推進会議 9月2日（月） 開催 ＞

- 課長 最後に被災地支援について、事務局より報告をお願いします。
被災地支援についてご報告します。
大田区での支援の取り組みについて…大田区被災地支援ニュース

《 説 明 》

- 会長 それでは、時間もせまってきたようですので、この辺で審議を終了させていただきます皆様、本日はありがとうございました。
事務局よろしくお願いします。
- 部長 これで、本日の会議は終了です。お疲れ様でした。

《 終 了 》